

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	西九州大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ニシキュウシユウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	あすなろう体験2(実践)
	学部・研究科等名	全学部
	担当教職員名・役職	井本浩之・副学長、リカレント教育・研究推進本部長
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	8	
受入企業等数	9	
受入企業等名	(一社)TASUKI、佐賀市立北川副小学校、小城鍋島家Ten、高木保育園、(公財)佐賀県国際交流協会、NPO法人循環生活研究所、本間農園、榊セールスアカデミー	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等) 3.その他
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	【受入先:高木保育園】 幼児1クラスを対象としたおやつ提案
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	保育及び調理の就業体験と、受入先職員へのヒアリングを基にしたおやつレシピ提案並びに提供を行った。なお、インターンシップ期間中、職場に出勤しない期間を3日間設け、メニュー考案・試作に充てた。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1年次から、サーピスラーニング、PBL型のインターンシップを導入。1年次は必修、2年次以上で中長期やPBL型のインターンシップを履修できる体制を整備している。各年次で獲得できる単位は2単位ずつ、最高6単位を卒業単位として獲得可能。
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	

要素③	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	成果目標やISの実施目的については、一斉授業において取り扱う。成果目標は自己分析シート等を用いて各自志向性や強み弱みを認識させ設定させる。実施目的については、過去のIS参加者を招きIS参加後の学生生活の変化等について意見交換を行っている。受入企業の研究については、学生によって受け入れ時期が異なる場合があるので担当の教職員が面談で対応している。受け入れ企業からは事業所に関する課題図書などを提供される場合もある。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	ISの研修内容及び研修を通じた学びについて全員がプレゼンテーションを行い質疑を受け付ける。なおプレゼンテーションの内容は「意識した社会人基礎力」「当初設定した目標の達成度の振り返り」を含むことを必須としている。日報を用いた振り返りは担当の教職員が面談で行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	担当の教職員が現地に赴き、受け入れ先と面談の後、学生同席の面談を行う。受入れ先との面談では、学生の業務執行状況についてヒアリングし、学生同席の面談で学生にフィードバックを行う。また事前学習で設定した目標の再確認を行う。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	IS参加後はレポートの提出を必須としており、助言教員の返信を以て活動への参加を完了させるシステムを用いている。また、本学独自の社会人基礎力測定テスト(全64問)を用い、学生自身で汎用的能力の伸長について可視化できるようにしている。またIS関係科目を含む全科目において、修得する能力要素を汎用的と専門的に細分化しそれに基づいた評価基準を設けている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実働10日間を基準としている
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄) 5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	

	6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業とは受入れ調整のフェーズにおいて、受け入れメリットや学生の到達目標から逆算したプログラム設計を協働して行っている。例として本間農園におけるインターンシップでは、対象学生の社交性の向上を目的の1つとしていたため、就業体験(農作業)のみならず、受入先と親交が深い方々(例: 周辺地域で地域づくりに取り組む方々)と交流の場を多数設けていただいた。研修終了後においても、SNS等を通じて受入先との交流は続いており、学生の社交性向上に大きく好影響を与えている。
	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://er.nisikyu-u.ac.jp/">http://er.nisikyu-u.ac.jp/</a> あすなろう1基礎、あすなろう体験2(実践)、あすなろう体験3(応用実践)を検索してください。
問い合わせ先	大学等名	西九州大学
	担当部署名	リカレント教育・研究推進本部
	担当者役職名	井本 浩之本部長
	担当者氏名	横尾 仁美
	電話番号	0952-37-9282
	メールアドレス	yokoohit@nisikyu-u.ac.jp